

音源の比較試聴(38)
—バッハのチェンバロ協奏曲—

1. 始めに

前報(37)に引き続き、各種音源の再生経路に関する仮想アースとアースアキュライザーや OPT ISO BOX や LAN iPurifier Pro などを含む種々の対策の効果の確認のため、各種音源の比較試聴を実施します。

2. 音源の比較試聴の試聴方法と音源

アナログ関係の対策の経過は前報(27)でも延べたとおりで、配信や CD 再生の光アイソレーションなどの対策は fidata HFAS1-S10 の活用シリーズや OPT ISO BOX の導入シリーズや LAN iPurifier Pro で報告してきました。

今回、同じマスター音源のアナログ盤と STAGE+からの配信を比較試聴します。

アナログ盤は下記を使用します。

ARCHIV 28MA 0020

バッハ チェンバロ協奏曲 1 番 2 番 3 番

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

配信は STAGE+から上記と同一の曲と同種の曲を選択します。

バッハ チェンバロ協奏曲 1 番 2 番 3 番

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

バッハ チェンバロ協奏曲 4 番 5 番 6 番 7 番

トレヴァー・ピノック指揮イングリッシュコンサート

それぞれの音源は、下記の経路で聴いていきます。

アナログ盤

LINN LP-12→ZANDEN Model 12→Brooklyn DAC+→TruPhase

STAGE+

ルーター→スイッチングハブ→PC→Brooklyn DAC+→TruPhase

3. 音源の比較試聴結果

アナログ盤は、レーベルに対応したイコライザー特性で聴いていきます。

この盤はしばしばリファレンスとしての試聴に使用していますが、アンサンブルの響きが豊かで、チェンバロは繊細感と響きの良さがバランスしています。

STAGE+の配信は、解像度もよく、くっきりとした切れのよい音で、チェンバロの繊細感も通奏低音も明瞭です。

4. まとめ

アナログ再生とSTAGE+からの配信を比較してみましたが、これまでの対策で、すべてにおいてレベルが向上しており、以前のような格差がなくなっており、アナログ盤の響きが豊かさに対し、STAGE+の配信のくっきりとした切れのよさが対比されます。

以上